

中級から学ぶ日本語
三訂版

テーマ別

ワークブック

〔監修〕松田浩志

〔著〕亀田美保

惟任将彦

安本博司

山田勇人

KENKYUSHA

目 次

『ワークブック』を使っていたかく先生方へ v
CDトラック番号一覧 ix

第 1 課	まなぶ	1
第 2 課	みつける	7
第 3 課	たべる	13
第 4 課	たとえる	19
第 5 課	あきれる	25
第 6 課	つたえる	31
第 7 課	かざる	37
第 8 課	おもいこむ	43
第 9 課	まもる	49
第 10 課	なれる	55
第 11 課	つながる	61
第 12 課	わかる	67
第 13 課	おもいだす	73
第 14 課	みなおす	79
第 15 課	ふれあう	85
第 16 課	うたう	91
第 17 課	なおす	97
第 18 課	はなれる	103
第 19 課	かなえる	109
第 20 課	おぼえる	115

『ワークブック』を使っていただく先生方へ

1. 改訂のねらい

『テーマ別 中級から学ぶ日本語 ワークブック』（以下、『ワーク』）は、大幅に改訂された『テーマ別 中級から学ぶ日本語（三訂版）』（以下、『中級』）の出版を機に、それに基づいて従来の『ワーク』にはなかったような練習問題を付すなどして、『中級』との補完関係をより明確にした教材です。

大きな改革点は、従来の〈聴解Ⅰ〉〈聴解Ⅱ〉〈速読〉を、それぞれ〈聞きましょう A〉〈聞きましょう B〉〈読んでみましょう〉という名称に変え、そのほとんどを『中級』各課のテーマとより明確なつながりを持たせるよう書き換えた点です。また、〈練習しましょう〉を加え、各課の新出漢字・語彙・文法項目の練習を補うことによって、復習教材としての性格をいっそう明確にした点です。全体の構成とねらいは以下の通りです。

2. 各セクションの構成とねらい



聞きましょう A

練習のねらい:

会話を聞いて情報を聞き取る、いわゆる聴解力を伸ばすのと同時に、会話でよく用いられる口頭表現や縮約形を理解することを目的としています。

練習の形式:

会話の長さは、1～7 課までが 500～600 字程度、8 課以降は 600～670 字程度になっています。問題Ⅰは、聞き取った内容が把握できているかどうかを確認する問題、問題Ⅱは、ディクテーション問題になっています。書き込みの部分は、会話などで用いられる口頭表現、及び『中級』の当該課で提示されている語彙や表現が出てくる箇所が中心になっています。（なお、紙幅の都合で、書き込み部分の長さが実際の解答より短い場合もありますので、ご注意ください。以下の〈聞きましょう B〉〈練習しましょう〉の記入欄についても同様です。）

練習の進め方:

- (1) 会話を聞いて、どんな人が、どのような状況で、何をテーマに話しているのかを理解します。
- (2) 会話は、1 回で十分に情報が聞き取れない場合は、もう一度聞いても良いでしょう。

CD を聞く際には、最初は問題Ⅱの部分を見せず、書き込みを行わないようにしてください。

- (3) 問題Ⅰの解答を確認後、再度 CD を聞いて、問題Ⅱの書き込みを行います。書き込み部分には、よく使われる口頭表現や縮約形などが含まれていますので、最後にこれらの表現を取り上げ、練習しても良いでしょう。

聞きましょう B

練習のねらい：

〈聞きましょう A〉よりもややフォーマルな説明や、公の場での話、講演などを聞いて情報を聞き取り、理解することを目的としています。また、そのために必要な学習スキルとして、求められる情報を聞き取り、ノートを取ること(ノートテキング)、ノートを見ながら、文を再構築し、内容をまとめること(ディクトグロス)を練習に取り入れ、これらの学習スキルを高めることを目指します。

練習の形式：

聞き取り部分と設問Ⅰ、Ⅱからなります。聞き取り部分の長さは、1～10 課までが 550～650 字程度の 3 段落、11～20 課が 700～800 字程度の 4 段落の構成になっています。問題Ⅰは、聞き取り部分の構成に合わせて、1～10 課が 3 問、11～20 課が 4 問となっており、原則として、各段落の要点を問う設問になっています。問題Ⅱは、ノートを見ながら文を再構築する練習です。問題Ⅰで問われた内容について、さらに詳しい情報をまとめます。

練習の進め方：

- (1) CD を聞く前に、問題Ⅰに目を通し、あらかじめ聞く内容について推測します。そして、これらの点を中心にノートを取るよう指示します。
- (2) CD 音声の冒頭には、語られる内容についての簡単な導入部分があります。それを聞いて、これからどんな人が何をテーマに話すのかを理解します。
- (3) CD を聞いて、ノートを取ります。必要であれば、1 回目はただ聞くだけ、2 回目はノートを取るなど、学習者の聞き取りの力に合わせて工夫すると良いでしょう。また、1 回で十分に情報が聞き取れない場合は、もう 1 度聞いても良いでしょう。CD を聞く際には、最初は問題Ⅱの部分を見せず、書き込みを行わないようにし、後で時間を与えます。
- (4) ノートを見ながら、問題Ⅱの下線部分の文完成を行います。答えは、内容が合っていれば、CD で聞いた文の通りでなくてもかまいません。時間があれば、聞いて理解した内容の要約を書かせるのも良い練習になると考えられます。



読んでみましょう

練習のねらい:

従来の〈速読〉と同様、まとまりのある文を読んで、読むことへの抵抗感をなくし、概要を理解すること、読むスピードを高め、要点を的確にとらえる力を養うこと、各課で学んだ新規学習項目が理解できているかどうかを自己確認し、達成感を持てるようになることを目指す練習です。『中級』各課のテーマを、〈読みましょう〉とは違う側面から考えられるような内容、〈読みましょう〉にある情報をさらに補充するような内容になっています。

練習の形式:

〈読みましょう〉本文と問題Ⅰ、Ⅱで構成されています。本文は、当該課の新規学習項目を含む既習の語彙と表現のみで書かれていて、1～10課までは3段落構成で600～700字程度、11課以降は4段落構成で800字程度としています。問題Ⅰは内容の理解を確認するための正誤問題で、10課までは6問、11課以降は8問になっています。問題Ⅱは要点についての記述問題になっており、10課までは3問、11課以降は4問で構成しています。

練習の進め方:

- (1) 学習者に合わせて、5～7分程度と時間を決めて、時間に余裕がある場合も、内容がつかめるまで何度も読むよう指示します。その際、後の正誤問題は見ないことを徹底します。
- (2) 全員が読めた時点で、次ページの問題Ⅰを行います。その際、本文を見ずに解答するよう指示します。
- (3) 全員が解答を終えたら、答えをチェックしながら、要点を確認します。必要に応じて、再度本文に目を通して良いでしょう。
- (4) 最後に、問題Ⅱを行います。必要に応じて、口頭練習をしてから書く練習をすると良いでしょう。また、宿題にしても良いと思います。



練習しましょう

練習のねらい:

新規学習項目を既習項目と組み合わせ、豊富な練習問題を通して繰り返し使用することによって、学習者が、学習項目が身についているかどうかを自己確認することを目指します。

練習の形式：

以下の5種類の練習問題からなっています。基本的には自宅での使用を想定していますが、課の最後に復習として使用することも可能です。

- I. 「漢字の練習」では、各課の新出漢字の読み方と書き方を練習します。『中級』〈漢字を練習しましょう〉Aに含まれる漢字は、読み方と書き方の両方が練習対象となり、Bに含まれる漢字は、読み方のみが練習対象となります。
- II. 「慣用表現・副詞の練習」は、各課で新しく学習した慣用表現と、副詞(的表現)を短文の意味を理解しながら練習する問題です。
- III. 「助詞の練習」では、助詞(の・を・に・まで・が・より・から・で・へ・と)を正しく使えるようになるための練習をします。各課の新出語彙・表現を使った文で練習します。
- IV. 「活用の練習」は、動詞、形容詞の活用の練習をします。
- V. 「文を作る練習」では、2文を1文にする練習や、類似表現への書き換え練習などを行います。また、初級学習項目の応用練習や、『中級』〈使いましょう〉では取り上げられなかった表現の練習も行います。

練習の進め方：

- (1) 「文を作る練習」では、まず、練習の最初にある例文にしたがって解答文を書きます。
- (2) 複数の解答文が考えられる練習では、学習者の能力に応じて、いくつかの文を書かせるようにすると良いでしょう。
- (3) 学習者のレベルに応じて、ここでの問題を基にして、より自由に文を作る練習をするのも、作文の力を伸ばす良い方法だと思います。

CDトラック番号一覧

Disk 1

- 01: 第 1 課 聞きましょう A (会話)
- 02: 第 1 課 聞きましょう A (質問)
- 03: 第 1 課 聞きましょう B
- 04: 第 2 課 聞きましょう A (会話)
- 05: 第 2 課 聞きましょう A (質問)
- 06: 第 2 課 聞きましょう B
- 07: 第 3 課 聞きましょう A (会話)
- 08: 第 3 課 聞きましょう A (質問)
- 09: 第 3 課 聞きましょう B
- 10: 第 4 課 聞きましょう A (会話)
- 11: 第 4 課 聞きましょう A (質問)
- 12: 第 4 課 聞きましょう B
- 13: 第 5 課 聞きましょう A (会話)
- 14: 第 5 課 聞きましょう A (質問)
- 15: 第 5 課 聞きましょう B
- 16: 第 6 課 聞きましょう A (会話)
- 17: 第 6 課 聞きましょう A (質問)
- 18: 第 6 課 聞きましょう B
- 19: 第 7 課 聞きましょう A (会話)
- 20: 第 7 課 聞きましょう A (質問)
- 21: 第 7 課 聞きましょう B
- 22: 第 8 課 聞きましょう A (会話)
- 23: 第 8 課 聞きましょう A (質問)
- 24: 第 8 課 聞きましょう B
- 25: 第 9 課 聞きましょう A (会話)
- 26: 第 9 課 聞きましょう A (質問)
- 27: 第 9 課 聞きましょう B
- 28: 第 10 課 聞きましょう A (会話)
- 29: 第 10 課 聞きましょう A (質問)
- 30: 第 10 課 聞きましょう B

Disk 2

- 01: 第 11 課 聞きましょう A (会話)
- 02: 第 11 課 聞きましょう A (質問)
- 03: 第 11 課 聞きましょう B
- 04: 第 12 課 聞きましょう A (会話)
- 05: 第 12 課 聞きましょう A (質問)
- 06: 第 12 課 聞きましょう B
- 07: 第 13 課 聞きましょう A (会話)
- 08: 第 13 課 聞きましょう A (質問)
- 09: 第 13 課 聞きましょう B
- 10: 第 14 課 聞きましょう A (会話)
- 11: 第 14 課 聞きましょう A (質問)
- 12: 第 14 課 聞きましょう B
- 13: 第 15 課 聞きましょう A (会話)
- 14: 第 15 課 聞きましょう A (質問)
- 15: 第 15 課 聞きましょう B
- 16: 第 16 課 聞きましょう A (会話)
- 17: 第 16 課 聞きましょう A (質問)
- 18: 第 16 課 聞きましょう B
- 19: 第 17 課 聞きましょう A (会話)
- 20: 第 17 課 聞きましょう A (質問)
- 21: 第 17 課 聞きましょう B
- 22: 第 18 課 聞きましょう A (会話)
- 23: 第 18 課 聞きましょう A (質問)
- 24: 第 18 課 聞きましょう B
- 25: 第 19 課 聞きましょう A (会話)
- 26: 第 19 課 聞きましょう A (質問)
- 27: 第 19 課 聞きましょう B
- 28: 第 20 課 聞きましょう A (会話)
- 29: 第 20 課 聞きましょう A (質問)
- 30: 第 20 課 聞きましょう B

第1課

まなぶ



聞きましょう A

Disk 1 01, 02

I. 会話を聞いて、質問に答えてください。

1. () 2. () 3. () 4. () 5. ()

II. もう一度聞いて、書いてください。

A: あ、たかこさん。お買い物。

B: うん。スーパー、こんでたいへんだった。

A: この時間はいつもこんでるよね。ねえ、りょうちゃん、①_____、
_____。

B: まあね。②_____ことはあるけど…。
③_____。あまり何も言わないようにしてるの。

A: うちのゆうきね、④_____。これまで勉強した
ことないから、⑤_____。

B: りょうも初めて。⑥_____。

A: ゆうきも⑦_____、しゅじんがね…。

B: ごしゅじんがどうしたの。

A: そんなに小さいときから英語勉強しなくてもいいって。あまり英語、英語って
言って、⑧_____。

B: そうね。うちは、親ができないから、⑨_____、
_____って言ってたけど。

A: 私もそう思うけど…。

B: それでも、今は楽しくやってるようだから…。

A: ゆうきも、⑩_____、_____。

B: 楽しく勉強して、英語が話せるようになってくれると一番だけどね。

A: そうね。あ、そろそろ行くね。じゃ、また。



聞きましょう B

Disk 1 03

I. 質問に答えられるように、ノートを取りながら、聞いてください。

1. 話している人は、どうして日本語を勉強するようになりましたか。
2. 日本語の勉強を始めて、おもしろいと思ったのはどんなことですか。
3. 外国語を勉強することをどのように思っていますか。

II. ノートを見ながら、書いてください。

1. 日本語の勉強

- ◆ 父に、_____と言われ、
勉強を始めることになった。
- ◆ 日本語の勉強は初めはいやだったが、_____
ので、楽しくなってきた。

2. おもしろいと思ったこと

- ◆ 日本語ではどうして_____
のだろうと思った。
- ◆ 日本語を話す人たちは、人や動物を見るときは、物を見るときとは、_____
_____と思った。

3. わかったこと

- ◆ りゅうがくしているときに、言葉の勉強は_____
とわかった。
- ◆ 今も勉強しているのは、外国語の勉強が_____
_____とわかったからだ。



練習しましょう

I. ひらがなは漢字にして、漢字は読み方を書いてください。

1. 日本で勉強を①はじめたとき、②はじめは言葉や③**ぶんか**のちがいにこまりました。
①() ②() ③()
2. ④**こども**がかぜを引かないか⑤**しんぱい**で、何度も手を⑥**あらいなさい**と言っています。
④() ⑤() ⑥()

3. ⑦わたしが英語を教える⑧あいては、小学生の⑨せいとなのですが、最近は、自分もいっしょに勉強したいと言ってくる⑩おやも多いです。
 ⑦() ⑧() ⑨() ⑩()
4. ⑪お父さんと⑫お母さんに「おやすみなさい」と言って、⑬寝ました。
 ⑪() ⑫() ⑬()
5. ⑭今日は⑮歯が痛くて、ごはんを食べるのは⑯難しいので、何も食べずにいます。
 ⑭() ⑮() ⑯()
6. 外国語を⑰学んでも、ここでは使う⑱場面がありませんし、話す人もいません。
 ⑰() ⑱()

II. ()の中に言葉を入れて、文を作ってください。

1. 弟が外国へ行くことになるとは思っても()でした。
2. 父に言われてから、おとなの話には口を()なくなりました。
3. 父はいそがしいのに、仕事の()を止めて、私の話を聞いてくれた。
4. 初めは()が、今は500メートルも泳げるようになりました。
5. お酒を飲むと、みんなは口々に仕事のことを()始めた。

III. ()に助詞を書いてください。「は」「も」は使えません。

1. 私は母()言われて、朝とばん、歯()みがいています。
2. 大学生の間に外国に行って、今まで()広い世界を知りたいと思います。
3. かんたんたいそうをするので、みんな足()広げて立ってください。
4. 最近、小学校へ入る前()子供()外国語の勉強()させる親が多い。
5. 言ってはいけないことを言って、友だち()いやがられてしまった。

IV. 【 】の言葉を正しい形にして、()に入れてください。

1. 私は卒業するとき、先生が()ことを今でもよくおぼえています。【言う】
2. 夏休みになったら、友だちと海に()り、スポーツを()りしたい。【行く】【する】
3. 友だちに聞いたんだけど、日本では、12月31日におそばを()らんだって。【食べる】
4. 英語の時間に、親が子供になぞなぞを言う場面が()きた。【出る】
5. ある日、子供が「お母さんは英語が話せるの」と()きた。【聞く】

V. 例のように、ふたつの文をひとつにしてください。

例

子供は何を言っていますか。私はよくわかりませんでした。

⇒私は、子供が何を言っている(の)か、よくわかりませんでした。

1. 次は子供がどんな話をしてくれるのだろうか。私は楽しみにするようになりました。

⇒私は、_____か、_____。

2. 先生はどんな説明をされましたか。私は聞いていませんでした。

⇒私は、_____か、_____。

3. 外国の子供はどうして寝る前に顔を洗うのですか。私はよくわかりませんでした。

⇒私は、_____か、_____。

4. 日本語のじょうずな人はどんな勉強をしているのだろうか。私は知りたいと思いました。

⇒私は、_____か、_____。

5. 日本人は自分たちの文化をどう思っているのだろうか。私は友だちに聞いてみました。

⇒私は、_____か、_____。



読んでみましょう

どっちが大切

小学校で英語を教えることには、いろいろな意見があります。日本には英語が話せる人が少ない。早くから勉強しておけば、仕事で英語を使う場面になっても、それができるようになる。そう考える人たちは、子供のときから英語を始めることが大切だと言います。そして、英語といっしょにちがう文化も学んで、ものの見方を広げることも大切だと言います。 5

そうではない。英語を教える前に、まず日本語だ。日本語で正しく話したり、書いたりできなくてはいけない。言葉がどんなものか、言葉を使って相手にわかってもらえるように、自分の言いたいことを言ったり書いたりするのはどうすればいいか、初めにそれを日本語で学んでおかなければ、英語も正しく学べない。小学校から英語を教えると、日本語も英語もできなくなってしまうと心配する意見もあります。 10

いろいろな意見がありますが、それでも、日本では、小学校から英語のじゅぎょうが始められることになりました。大切なことは、子供たちが英語の勉強を楽しみにして、勉強しようと思えることです。親がいろいろ考えて、勉強したくない子供に勉強させ、英語がきらいな子供が出てくるようなことになれば、小学校で英語を勉強することには意味がなくなるでしょう。 15

I. 上の文を読んで、正しいと思う文に○をつけてください。

1. () 日本には英語を使える人がたくさんいる。
2. () 英語の勉強は早くから始めなければならないという意見がある。
3. () 英語を学べば、ものの見方を広げることになるという意見がある。
4. () 日本語ができなければ、英語もできないという心配もある。
5. () 子供が自分から勉強しようと思うことが大切だ。
6. () 英語がきれいな子供がおおぜいいるので、英語の勉強は意味がない。

II. 次の質問に答えてください。

1. 早くから英語を教えたほうが良いと言う人は、どうしてそう言うのですか。
_____。
2. まず日本語を勉強しなければならないと言う人は、どうしてそう言うのですか。
_____。
3. 子供たちに英語を教えるということを考えるときに、大切なことは何ですか。
_____。